

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第3回安心部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	出産・子育て 女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・今の時代の話としては、「核家族化」というより、ひとり親家庭や共働き家庭の増加ということが問題なのではないか ・「晩産化」という表現の意味はわかるが、使い方としてよろしいか
2		<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭への支援として、経済的支援の中で、特例的な扱いができるような支給要件の見直しなどができないか ・特に、離婚成立前の悪質なケースにおける生活支援に対するものなど
3		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども医療費助成において、県下全域で同じ補助が受けられるようにして欲しい ・「子育てほっとクーポン」の充実として、ワクチン接種の助成を同様にできないか ・少子化対策に対する本当の意味での施策として、大分県はトップレベルとなるようお願いしたい
4		<ul style="list-style-type: none"> ・保育コーディネーターの質の向上を記載できないか
5		<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待においては、虐待を減らすということが本来の目標であり、「里親委託率」という目標指標でよいのか ・相談・検挙件数を減らすといった目標の方が、ダイレクトかつ積極的ではないか
6		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが学校に通う段階になると、学校現場でのPTAや行事など、家庭にかかる負荷が大きくなる ・子育てに関わる時間が取れない、職場でも休みが取りにくいといった状況などを、子どもに見せないようにするなど、社会的に変えていくべき
7		<ul style="list-style-type: none"> ・男性の育児参加が重要であり、男性が子育てすべきという機運醸成が必要 ・女性もキャリアを積んでいる人はおり、その意味では男性と変わらない ・結局、女性が育休をとってキャリアを捨てる状況になるため、管理職(指導的立場)が少ないということに繋がる ・男性が育休を取り、女性がキャリアを積むようになれば、絶対、子どもを産むようになると思う
8		<ul style="list-style-type: none"> ・保育所等への病児のお迎えは、母親にとって負担が大きい ・まず休みを取りやすい職場に変えること、また、男性が迎えに来るようになることが大事 ・企業内保育も重要であり、まずは県庁が率先し、県庁内保育所をつくっても良いのではないかと
9		<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待への取組が重要 ・子育てを支える地域の中で、両親学級や家庭学級、中高生の性教育の中で、結婚に関する知識を教育し、親になる際の覚悟を勉強する取組を充実した方が良い
10		<ul style="list-style-type: none"> ・現状、女性の自治会長は非常に少なく、地域でも女性の活躍が望まれる
11		<ul style="list-style-type: none"> ・子育てや家事に積極的に取り組む男性がいるということをもっと紹介すべき ・見える形にし、イメージを植え付けていくことが重要
12		<ul style="list-style-type: none"> ・イクボスを実現するには、県庁が率先して実施するなど、年代的にはなかなか難しい気がする
13	地域 共生社会	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区単位でコミュニティはでき、活性化してきてはいるが、現実的には事務局が頑張らなければいけないというのが現状 ・集落の何人かが代表でやってるため、全員でやっているという意識は希薄になっており、人材育成が課題
14		<ul style="list-style-type: none"> ・地域、コミュニティづくりで重要なのは、それを支える人 ・やりたい人とやれる人は違うため、その人材育成が重要 ・その人の影響力、繋げられる力などが重要であり、その人材の発掘、獲得、育成が課題

No.	項目	発言要旨
15	地域 共生社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会は、地域の移動手段や都市構造・地域構造そのものの議論と関連する ・その他のテーマも、関連するテーマと連携させた議論が必要ではないか
19		<ul style="list-style-type: none"> ・地元では移動販売車が非常に役立っている ・安否確認や郵便など、買物以外のサービスも兼ねるなど、「届けるサービス」として、なくてはならないものになるのではないか ・宅配も人手不足な状況であり、地域を回ってもらえるシステムがあると良い
16	地域内 移動手段	<ul style="list-style-type: none"> ・3世代同居であれば、免許返納した高齢者の家族が移動手段を確保できる ・子育て同様、近居・同居の家族を生かすということを考えるべきではないか
17		<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段として、全てを一挙に解決する手はない ・通院や通勤、買物などのケースによって考え方を考えるべきではないか ・道路の状況が良くない中山間地域では、自動運転には時間がかかるため、時間軸という考え方も踏まえた手立てを考える必要があるのではないか
18		<ul style="list-style-type: none"> ・交通の配分は都市構造と合わせて考える必要がある ・時間軸を踏まえると、5～10年後の人口、交通需要などの変化を捉えた検討が必要 ・安全・安心な交通の確保も重要であり、技術により、時間帯によって速度制限をかけるなど、思い切ったことも必要ではないか ・交通の担い手については、色々規制・制約があると思うが、そこを打破することも必要
20		<ul style="list-style-type: none"> ・タクシー会社を退職された方を活かした、近・中距離の移動手段の確保ができないか ・タクシー会社がCSR活動として実施した場合、何かしらのポイントを付与するなどといった工夫により、行政が連携してうまく実施できないか
21		<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の金融機関もなくなってきており、近隣の高齢者を送迎するケースが多い ・その際、金銭の授受があると問題となるため、困るケースもある
22	健康寿命	<ul style="list-style-type: none"> ・介護人材の状況は、現場の感覚としてはもう少し深刻であると思われるため、もう少し問題意識をもった記載をした方が良いのではないか
23	障がい者	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔保健センターの施策を打つことは良いが、記載が多すぎないか
24	犯罪被害	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪も複雑化・多様化しており、官民が一体となった被害対策の構築をして欲しい
25	人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・一度県外に出た若い女性に「帰っておいで」というためには、帰るための魅力が必要 ・そのためには、大人が、田舎や農業などを、楽しいと伝えていかなければならない